

6 附属池田中学校 平成24年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その1)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	1. 共同研究「自立し協同する力を育む教育の推進および各自の研究力の向上」	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)小学校・高校とのカリキュラムの連続性を意識した共同研究の推進	①各教科において、小学校教員・高校教員と連携を図り、カリキュラムづくり・授業づくりを行う。	共同研究の目的に沿い、本当の意味で連携が図れるようになった1年であった。言語活動に重点をおいた新カリキュラムが、いくつかの単元・領域ごとで出来上がった。	さらに研究を進め、各教科で全単元においてカリキュラムの構築に努めたい。	B	11月開催の研究会発表時に実践的プログラムを拝見した。各教科実をあげていると感じた。	B	各教科において研究を継続し、カリキュラムの構築を段階的に図る。	研究
	②各教科において、小学校教員・高校教員と連携を図り、研究協議を行い次年度に生かす。	今年度は、各教科からリーダーを選出した。リーダーを中心とした小中高連携での教科研究体制が確立してきた。	来年度は教科間での研究日を月に1、3回設け、連携をさらに活発化させていく。		B	とりわけ共同研究のリーダーは不可欠である。経年的に推進願いたい。	B	連携を活性化させるために、年度はじめに会議日を小中高協議の上で設定する。
(2)各教科・領域における積極的な研究の継続・推進	①科学研究費助成事業(奨励研究)に8人以上応募する。	今年度は、12名の科学研究費助成事業に応募することができた。研究校の教員として、このような研究費助成事業には積極的に参加する意識が全体に広がった。	今後とも、応募件数について高い数字を維持しながら、それと同時に質のさらなる向上に努めたい。	A	応募することが目標なので問題ないが、本来的には採択実績を評価したい。	B	高い応募件数を維持しながら、採択率が上がるように、大学の先生や採択経験者からの助言を受ける。	研究
	②全教員が年1回以上、研修会に参加する。	ほぼ全員が、全国各地で開催された研修会に参加し、得られた成果を本校研修会で報告することができた。	今後とも研究部より、さらに参加を呼び掛けていきたい。	B	十分な達成感を感じるが、継続性、発展性も追求していただきたい。	A	研究会参加で得られた成果報告会における意見交流をさらに活発化する。	研究

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	2. 授業力の向上	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)言語活動をとり入れた授業の実践	①全教員が年1回以上、研究授業を実施する。	予定通り、全教員が年に1回以上の研究授業を実施することができた。	来年度も年に1回以上の研究授業の実施を予定し、さらに授業内容、協議会の質の向上にも努めたい。	B	研究授業の成果を実際に活用することが肝要である。	B	授業研究会の回数を増やすとともに、協議するテーマを絞り、質の向上を図る。	研究
	②研究授業実施にあたり、教員全員で指導案の検討を図り、研究協議会では全教員が1回以上発言する。	指導案の検討については、各教科での検討、さらに全体での検討では、他教科の教員からも意見が活発に出た。協議会では、積極的な意見交換がなされ、全員より発言があった。	今後とも現在の形態を維持しながら、検討会・協議会のさらなる質の向上のため、教員全体の質の向上に力を入れたい。		B	全職員による1回以上の発言の目標は、目標設定として低レベルの感じが否めない。	C	目標設定として、1回以上の発言だけではなく、協議会の質が高まる発言に努める。
(2)生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業づくり	①生徒の学校評価アンケートから、80%以上の生徒に授業に関して満足感をもたせる。	学校アンケートの結果より87.2%の生徒がほとんどの授業は内容や進度が適度でわかりやすいと答えている。	アンケート結果では「あてはまる39.9%」、「ほぼあてはまる47.3%」を加えた数字が87.2%であるが、「あてはまる」の数値をさらに上げられるよう努めたい。	B	左記の改善点と同意見である。	B	思考力・判断力・表現力の育成にテーマに絞った授業研究会を多く実施し、協議を通じて授業の質を高める。	研究
	②電子黒板(ICT)を積極的に活用した授業を進める。	理科、社会、英語、技術・家庭科、道徳での授業実践で活用が見られた。	来年度は、各担当教員全員が年に1回以上は、電子黒板を活用した授業展開を試みる。		B	最新式の教育設備は各人が主体的に活用する意識が必要である。	B	電子黒板を活用した授業等の活用事例集を作成し、様々な事例を学びながら各自の実践に取り入れる。

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	3. 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)自己肯定感を育み、互いを尊重しあう人間関係の育成	①生徒の学校評価アンケートから、90%以上の生徒に学校生活に関して満足感をもたせる。	・「楽しい学校生活が送れている」の問いに、「当てはまる」「やや当てはまる」と90%以上の生徒が答えた。 ・「楽しい学校生活が送れている」の問いに、69%の生徒が「よく当てはまる」27%の生徒が「やや当てはまる」と答えていた。 ・「楽しい学校生活が送れている」の問いに、「当てはまる」「やや当てはまる」と98%以上の生徒が答えた。	・「当てはまる」が80%を超えるように、生徒会活動や学級活動、生徒支援の相談活動等をさらに充実させる。 ・「楽しい」だけでなくさらに充実した学校生活を送れるよう、生徒が活躍できる場の設定と、生徒の規範意識を高めるような取り組みを考え、実行する。 ・楽しいだけでなく、規律をしっかり守り、充実した学校生活を送ることができるよう、指導していく必要がある。	B	「学校生活に関する満足感」の意味合い(勉強・友人関係クラブ活動他)を更に詳細に定義した上で点検評価をする必要がある。	B	次年度は「学校生活に関する満足感」について、学習・友人関係等の関連性について分析を行う。	学年
	②学級や学年の活動の場において、他者と関わり、互いの考えを交流したりする場面をできる限り設ける。	・「話し合ったり、意見を発表する授業がよくある」では95%以上の生徒が、「学活や総合等で生き方を考える機会がある」では90%以上の生徒が、「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。 ・「自分の考えを話し合ったり、意見を発表する授業がよくある」の問いに、75%の生徒が「よく当てはまる」20%の生徒が「やや当てはまる」と答えていた。 ・「話し合ったり、意見を発表する授業がよくある」では96%以上の生徒が、「学活や総合等で生き方を考える機会がある」では86%以上の生徒が、「当てはまる」「やや当てはまる」と答えている。	・「当てはまる」が80%を超えるように、授業という場だけではなく、生徒同士が悩みや課題を言い合える機会を増やしていく。 ・考えを交流する場面がさらに深い学びの場面となるよう、形態の工夫(教科学年横断的に行うなど)や、内容ある学習となるよう、生徒の負担を考え適切に場を設定する。 ・学活、総合等で、他者と関わり互いの考えを交流する機会をさらに増やす必要がある。		B	生徒のアンケート結果「授業」に関する評価が高い。よく工夫された授業運営であると推察できる。実社会で必須とされるコミュニケーション力の育成に更に励んでいただきたい。	A	コミュニケーション力の育成をさらに意識した取り組みを推進し、その取り組みに対する効果を十分に評価する。
(2)異なる文化や価値観を認め合い、自他ともに大切に育てる態度の育成	①生徒の学校評価アンケートから80%以上の生徒に国際性・国際生経験が生かされている実感をもたせる。	各学期末の成績会議で国際性・国際生に関する情報共有を実施。英語と中国語の言語保持活動も週一回実施した。全学年懇親会を学期に2回実施。豪州研修実施・文化発表会実施・国際生入試の合格基準の見直しにも着手した。	学力面で課題のある生徒のフォローの充実が必要かもしれない。	B	生徒のアンケート結果の評価が上がった理由と改善点のより具体的方策を示す必要がある。	B	学力面で下位低迷生徒のフォローの充実について、教育相談や放課後の補充学習等を実施する。	国際
	②真の自主・自律の確立、他者理解を深め、人としての誇りがもてる道徳教育を計画的・組織的に推進する。	80%以上の生徒が道徳の時間を「人としての生き方」を考えるのに有効だと考えている。今年度、学年を中心に、年間計画を立て、実施する資料の決定などを行い、生徒が自己理解だけでなく、他者理解を深められるように進められていると考えられる。	道徳の時間における授業の進め方など、まだ改善できる点があると考えられる。外部から講師を呼ぶなどして、道徳教育に対する理解を深め、より効果的に授業が行えるような研修を行うことが望まれる。		B	上記と同じようにポイント上昇の要因を分析し、さらなる改善につなげてほしい。	B	道徳については、系統的な計画を年度当初にたてる。また、より効果的な道徳授業の実施のため研修会を実施する。

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	4. 生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)生徒理解に基づく積極的な生徒指導の実施	①生徒の学校評価アンケートから、80%以上の生徒が教員の生徒理解に関して満足感をもたせる。	生徒の80%以上が親身になって、相談に応じ、理解していると感じており、達成することができた。	カウンセリングマインドを活かした生徒との対話を身につけ、より高い割合を得ることができるよう努力していく。	B	生徒アンケート結果の「生徒指導」の項目に関して大幅にアップしている。その方策を更に深化させてほしい。	B	会議の効率化を図る等の方策をとり、生徒と教員が接する時間をより多くとる。	生徒指導
	②共通認識・共通実践および保護者・関係諸機関と連携を図った対応を図る。	警察や、市町村の子育て支援部門等、関係諸機関および保護者との対話を通じ、問題を抱える生徒への対応を行う事ができた。	より一層関係諸機関との連絡を密に取りながら、生徒及び保護者への支援を行っていく。	A	生徒を取り巻く関係者の連携を密にするためのシステム構築が望まれる。	B	関係諸機関との連携の事例を文書化する等、マニュアル化を図る。	生徒指導
(2)生徒の規範意識の醸成および自他を尊重する集団づくり	①生徒指導委員会を軸に情報の共有化を図り、共通した指導を実践する。	各学年の状況を生徒指導委員会で共有化し、さらに、情報を選別して各学年へおろし、校内レベルでの情報の共有化及び生徒対応を図ることができた。	課題のある生徒や問題行動についての共有化や対応を図ることができたが、積極的な生徒指導について生徒指導委員会でより一層の意志共有をはかっていくようにする。	A	生徒アンケート結果の「校則を遵守していない」と回答している生徒が一定数存在している点には留意である。	B	生徒会が中心になる生徒の自主的活動と生徒指導部の生徒指導の連携を図ることにより、生徒の自己指導能力の育成を図る。	生徒指導
	②生徒のリーダー性・自発性を育むように生徒会の活性化を図る。	リーダー性の低い生徒についても、生徒会活動の中で役割を与え、意識の向上を図ることができた。	生徒の持てる力を最大限引き出したとは言いがたかったので、次年度はより一層生徒、生徒が主体的に活動していけるよう働きかけを行っていく。	B	リーダー性の向上を生徒に求めるのであれば、一定のリーダーシップ論を教示してあげる必要があるのではないかと。	C	生徒会本部会議や専門委員会の回数を増やし、その活動を発信できる場を保障することで、生徒のリーダー性・自発性の活性化を図る。	生徒指導
(3)いじめ・不登校のない学校づくり	①課題のある生徒の情報を共有し、「チーム支援会議」を実施し、支援を行う。	課題のある生徒の情報を共有する会議を実施し、具体的な支援の方策を練り、実行している。新しい情報があれば、その都度共有している。	職員全体への周知が学期に1度行っているのを、学年会議などを利用して、頻繁に行う。	B	チーム支援会議のメンバーにメンタルヘルスの専門家は参加しているのか。	B	チーム支援会議で論議した事柄について、メンタルサポートセンター等の専門家に指導を仰ぐ。	生徒指導・メンタル
	②生徒の教育相談の機会である「ふれあいウィーク」を実施する。	今年度は研究発表会の日程が大幅に変わったため、「ふれあいウィーク」は実施していない。	行事を完全に排除した1週間を設定して、一斉に実施できる体制を作る。	D	ぜひ、次年度は実施してもらいたい。	E	次年度は、年度当初に「ふれあいウィーク」の期間を設定する。	生徒指導・メンタル

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	5. 安全・安心な学校づくり	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)安全管理の推進	①年2回以上の防災訓練、年2回以上の防災訓練を実施する。	防災に対しては、実際の不審者進入を想定した訓練及び、想定や不審者の対応に対しての実技訓練を行い、防災については地震対応及び火災対応の避難訓練を実施し、それぞれ2回以上を達成することができた。	防災・防犯については、中学校の現場では様々な生徒の生活場所と教師の配置について様々なパターンがあるため、今後も実際に即した他のパターンでの訓練を実施し、柔軟な対応力がつけられるような訓練を実施していく。	A	様々な避難訓練はいざというときに功を奏する。ぜひ継続していただきたい。	A	本年度と同様に実施するが、実際の場面に对应できるように色々なパターンでの訓練を実施する。	安全
	②学校安全マニュアルを改訂する。	学校安全マニュアルについては、安全の手引きとして改訂を進めた。また、運用面でもより現実的な想定での運用について訓練において確認を行う事ができた。	安全の手引きについて、検討を深め、さらに、保護者、生徒用の安全の手引きの策定に向けての準備を進める。	A	安全対策においては、常に有識者(安全学の専門家)の見地を取り入れること。	A	学校安全マニュアルについては、より効果的・有効的なものになるように、IS S認証センターの指導を受けながら次年度も協議・改訂を行う。	安全
(2)安全教育の充実	①小学校・高校と連携を図った防災学習を研究授業として実施する。	小中高の連携で、授業において防災学習の研究を行い、研究発表会での発表を行う事ができた。	小中高連携の継続を語りつつ、総合や道徳、学活などの中で、防災だけではなく、防犯なども含めた「安全」という視点での学習を深めていく。	A	言うまでもなく、同敷地内にある小中高の連携は大切である。とりわけ緊急連絡体制の構築が肝要である。	A	小中高で発達段階に応じた防災を含む安全学習の推進を図る。	安全
	②安全意識が向上し行動につながる安全教育を実施する。	各教科ないしにおいてそれぞれの観点から安全教育を進めることができた。また、集会などで具体的な事例を挙げての安全教育や、通学路の安全点検を行い、安全意識の向上に努めることができた。	各教科の中での安全教育だけではなく、学活・総合を含めた安全教育の授業を行い、系統立てたカリキュラムの策定を進めていく。	B	安全教育において、地域の方々も交えて取り組むリーダーシップがあってもよいのでは。	B	総合や道徳、学活や各教科の中で系統的・計画的に安全学習を実施する。	安全

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	6. 教育実習の充実	

本年度の重点目標(評価項目)	具体的な取組内容(評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)教職を望む学生の資質の向上	①教科指導や学級指導において指導教員が細やかな指導を行う。	課題を持った学生に対しても早期に指導、対応、報告を行っていた。日々の記録等きめ細やかにそれぞれの教員が指導を行っていた。	指導に熱が入り、またそれに応えようとする学生の熱意で、学生の帰宅時間が遅くなることもあり帰宅が困難な状況があった。実習ガイドが全教員分無く、活用した指導を十分行うことができなかった。	B	「課題のもった学生」の定義が不明確である。いろいろな学生がいる中、その対応策を持ち合わせる必要があるのではないかと。	B	指導教員は個々の教育実習生の課題を把握し、各教科・実習部・管理職と報告・連絡・相談を密に行う。	教育実習
	②大学側と連携を図るとともに適切な評価を行う。	課題を持った学生に対しての情報共有を行うことができた。その結果として適切な評価を下すことができた。	教授と課題を持った学生に対しての情報共有は行えたが、実習の中間的な時期に大学側と状況を共有することが望まれる。	B	大学とのさらなる連携を図っていただきたい。	B	大学に情報提供を行うだけではなく、アドバイスを受けたり、場合によっては大学教員が実習生に対し直接相談活動をしていただく。	教育実習

6 附属池田中学校 平成24年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その3)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	人権尊重の精神を基に、自己を律し他者との関わりの中で思いやりのある豊かな心を培い、激しく変化する社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、生きる力に満ちた生徒の育成	自己点検評価を主体的に行う分掌
学校教育計画	7. 適切な組織運営、開かれた学校づくり、保護者・地域との連携	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策	
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価		
(1)機能的・機動的な組織運営	①保護者の学校評価アンケートから90%以上の保護者が教育方針等に対して満足感をもつ。	「附中の教育方針、教育目標、教育指導等に共感できる」という質問項目に、92.8%の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と解答している。	7%強の「共感できない」と解答した保護者がいることを念頭に置き、学年通信や保護者集会、HPなど、機会あるごとに学校の教育方針等を発信する。	A	「共感できない」のであれば、入学しなければよいのであって、過度に迎合することはしない。むしろ教育方針はぶれないようにすべきである。	B	学校の教育方針については、常に説明責任を有していることを意識するとともに、積極的に発信する。	運営・教務
	②ミドルリーダーが各分掌においてリーダーシップを発揮する。また、会議の効率化を図る。	学年主任を始め、教務・生徒指導・研究・国際・実習と各部における部長・主任が責任をもって運営している。リーダーによって精選された会議の進行により、会議の効率化が進んでいる。	それぞれの分掌の円滑な運営をさらに進めるため、運営委員会において情報の共有化を図り、学校の方針を共通認識し、学校全体の課題を整理・論議する場とする。	B	目標の達成に向けて、さらに方策を追求していただきたい。	E	運営委員会を中心に各分掌の情報共有及び部長・主任間の意思統一を図る。	運営・教務
(2)開かれた学校づくりの推進	①学習評価等の規準や進路情報、公文書等を適切に発信する。	学習評価等の基準については保護者に周知されている。一方で進路に関する情報が適切に行われていると感じている保護者は68%と、他の質問項目に比して低い数値となっている。	個人情報に関わることを十分に配慮しながら、進路に関する情報を早めに提示していく。	B	連絡進学を含む進路情報については、1年時から提供していく必要がある。	C	連絡進学を含む進路情報の段階的な提供の在り方について検討する。	教務・進路
	②学校評価について、積極的に公表する。また、学校HPのこまめな更新を行う。	学校評価については23年度の結果を24年度当初にHP上で公表している。学校HPは行事がある度にこまめに更新している。	生徒会や国際部など、更新がされていないページについて、担当部署に働きかけて更新する。	B	最新情報の更新をしながら積極的に情報を発信していくことが大切である。	B	関係分掌等と連携を図り、よりわかりやすく、より新しい学校HPの更新を行う。	教務
(3)保護者・地域との連携	①保護者の学校評価アンケートから、90%以上の保護者が授業参観や学校行事等に参加しやすいと感じるようにする。	「授業や行事に参観したり、懇談する機会を設け、保護者は参加しやすい」という質問項目に、90.3%の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と解答している。	授業参観の回数を増やしてほしいとの要望にどれだけ応えることができるか、行事を精選して検討する。	A	保護者の学校行事等の参加は学校への理解・協力が不可欠である。さらなる工夫をお願いしたい。	A	今後も保護者が参加して有意義であったと感じられる行事の在り方を追求する(関心がある講演会を授業参観やPTA総会後に入れる等)。	教務・PTA
	②PTA活動が活発になるよう学校として支援を行う。(保護者の学校評価アンケートから、90%以上の保護者がPTA活動に対し満足度をもつ)	「附中のPTA活動は活発である」という質問項目に、94.4%の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と解答している。	PTA活動が保護者任せにならないよう、職員の積極的な参加を常に促す。	A	PTA活動を通じてPTA自身も楽しめる企画が望ましいと考えられる。	A	PTA活動が保護者に大きな負担にならないように、活動の効率化等について検討する。	教務・PTA